



議会だより

清水

せい すい

平成28年(2016)第4回定例議会 No.64



新たな年の夢と希望を乗せて (益城中グラウンド)

平成28年度補正予算などを審議	…………… P 2 - 3
一般質問 復旧復興を問う	…………… P 4 - 8
12月議会の賛否表	…………… P 9

平成28年度一般会計予算

375億8,560万7千円

第4回
定例議会

平成28年第4回定例議会を12月15日より6日間の日程で開催し、平成28年度一般会計補正予算など補正予算7件、条例の一部改正2件及び災害復旧に伴う工事請負契約などについて慎重審査を行い可決認定した。また益城町復興計画についても承認することとした。

他、教育長及び教育委員の任期満了に伴う任命同意については教育長及び教育委員2名の任命に同意した。

一般会計歳入歳出補正予算事項別一覧

総括

(歳入)

(単位：千円)

款	補正前の額	補正額	計
10. 国有提供施設等所在市町村助成交付金	13,000	1,372	14,372
12. 地方交付税	3,036,815	689,336	3,726,151
14. 分担金及び負担金	223,279	△ 63,113	160,166
15. 使用料及び手数料	137,577	△ 4,950	132,627
16. 国庫支出金	9,559,579	1,381,345	10,940,924
17. 県支出金	5,246,530	613,185	5,859,715
18. 財産収入	52,007	480	52,487
19. 寄附金	183,853	45,908	229,761
22. 諸収入	312,495	73,428	385,923
23. 町債	9,793,100	825,300	10,618,400
歳入合計	34,023,316	3,562,291	37,585,607

歳入で主なものは、地方交付税、国庫支出金、県支出金及び町債となっている。その中で町債がすでに100億を超えており国のしっかりした対応が望まれる。「国は交付税措置で対応することであるが、早期対応を町と議会が一体となってしっかりと要望していかなければならない」

(歳出)

(単位：千円)

款	補正前の額	補正額	計
3. 民生費	9,205,169	370,040	9,575,209
4. 衛生費	10,429,592	62,685	10,492,277
8. 土木費	1,277,800	260,537	1,538,337
10. 教育費	1,483,898	98,918	1,582,816
11. 災害復旧費	5,335,429	2,611,555	7,946,984
1議会費・2総務費・6農林水産業費・7商工費・14予備費	4,957,089	158,556	5,115,645
歳出合計	34,023,316	3,562,291	37,585,607

増え続ける一般会計 予算確保は適正か

平成28年度の益城町一般会計は35億6229万1千円を追加し、歳入歳出予算の総額は375億8560万7千円となり、町の財政運営が厳しさを増してきている予算運用状況を審議。

仮設住宅運営費

問 応急仮設住宅物置使用料として1億9400万1千円が1562戸分として計上されているが、その設置方法及び物置の大きさはどうなっているか。

答 設置方法は集積ではなく個別に設置する。大きさは幅90センチ、奥行75～90センチの間、高さ192センチ程度が基準となっている。

都市計画委託料

問 都市防災総合推進事業委託料の7000万円について詳しい説明をお願いする。

答 財源の内訳は国庫補助が2分の1で残りは起債となるが、起債の80%は交付税措置が

取られることになって
いる。

事業内容は、災害発生時避難の障害となる狭隘道路の解消や一時避難場所及び防災公園を造るなど都市防災機能に関する事業の形成を、町民や地域と一体となって考えていこうというコンサルへの委託料となっている。

災害復旧工事費

問 がけ地災害復旧費で、設計委託料1億円及び工事請負費4億6800万円が計上されているが、工事の件数、場所、工事の順番を伺う。

答 正式名称は災害関連地域防災がけ崩れ対策事業で、事業の採択を受けたものが16件、



建て替えとなる役場庁舎

新たに申請したものが19件で合わせて35件分の事業費となっている。場所は寺迫、堂園、辻の城、安永、下陣、福原、杉堂地区などとなっている。工事の順位については、採択順で同意書など準備の整った分から順次、測量し工事を着工していく。

農地災害復旧費

問 農家自力復旧事業助成金として、交付金4000万円が組まれている。予定件数は200件とのことだが、そうすると1件の上限は20万ということか。

答 被災者農地のうち、国庫補助事業の対象とならないものについて農家自ら行う復旧作業等に要する、機械借り上げ料、機械オペレーター賃金、材料費等を対象に補助を行うもので、上限が2分の1補助で20万円となっている。

町債総額

問 一般会計予算375億8560万円のかで、かなりの起債をしているが、これまでの町債の額はどのくらいになっているのか。

答 平成28年度当初予算での町債と震災後の起債を合わせると約106億円、27年度末までの起債総額が94億8000万円、合計の約200億円となっている。起債は非常に心配だが復旧に向かっていることが大事ということで、予算を計上している。

訂正のお知らせ
前号（No.63号）一般質問記事中心P4一段目の「教育庁」を「教育長」に、三段目の「非難」を「避難」に訂正しお詫びいたします。

県道4車線化をどのように進めるのか

沿線上で事業をしている一人一人としっかり協議したい



宮崎 金次議員

県と連携し
どのように
進めていくのか

宮崎 本事業は熊本県の事業ではあるが、町が要望し、利益を得るのは地元我が町である。本事業を迅速・着実に推進するためには、沿道の皆さんの不安を解消する事が必要不可欠であると思うが、どのように進めていくのか。

町として積極的に
かかわっていききたい

町長 本事業主体は県であり、町として実行すべき業務の量・種類は事業の進捗に応じて変化するが、県と密接な協議を重ね、本業務に積極的にかかわっていききたい。

特に沿線上で事業されているお一人お一人としっかり協議したいと考えている。

宮崎 県道4車線化が、益城町の将来の発展に寄与するものであるとの強い信念に基づく町民への説明、県



4車線化予定の木山地区

道沿いの皆さんの痛みを出来るだけ和らげる為の最大限の努力、更にこれらスピード感を持って行う事が大切だと思いが、町長の考えはいかがか。

町長 ピンチをチャンスに変えるつもり、更に地権者の皆さんと思いを一つにする気で、本事業にかかわりたいと考えている。特に沿道で事業をされている方々には、出来るだけ思いを述べていただくようにして、町の賑わいを取り戻

したい。

町は防災態勢の何を
改善したのか

宮崎 震災から8ヶ月が経過したにもかかわらず、防災態勢が見直されないのはなぜか。町の防災態勢を高めるためには、防災の知識が豊富で、計画や訓練の指導、災害発生時に町長を補佐出来る人材の確保が緊急の課題だと思いがいかがか。

民間を活用し
早期に改善したい

町長 役場庁舎が被災した場合の代替え施設、地域防災計画に大地震を想定していなかった事、自主防災組織が未整備であった事、他の防災機関との協定がなかった事など、数多くの反省点があった。今後民間を活用して、反省点と教訓事項を早期にまとめ、町民が安心する災害に強い町づくりを目指したいと考えている。また役場防災組織を強化し

ていく中で、提案のあった防災専門家の確保について検討してまいりたい。

町単独で支払うべき
債務の額は

宮崎 現時点での町の一般会計の債務は、約200億円であるが、その中で国等から財政支援を受けられず、町単独で支払う町債の額はどれくらいか。

また、どの程度までなら町債は大丈夫と考えているのか。今後の債務増加を予想し、町長の考えを伺う。

町単独の債務は
約36億7千万円である

町長 これまでの町債の合計額196億3千万円のうち、約36億7千万円が実質的な町が負担する額である。

町債がいくらまでなら耐えられるかについては、難しい問題であり、現在把握していない。現時点では地震からの復旧復興に力を入れる事が重要であると考えている。



吉村 建文議員

県道28号線の 4車線化の整備について

スピード感をもって
整備をすすめていきたい

復興基金の活用

吉村 復興基金について、本町はどのような要望を行ったのか伺う。

復興基金の増額も含め強く要望していきたい

町長 県に対して28の復興基金事業、額として76億円の要望を行っている。今回打ち出された復興基金のメニューでは、要望していた事業の一部しか認められていない。

本町が要望している復興基金メニューの全てが認められるよう、また、復興基金の増額も含め要望していきたい。

県道28号線の4車線化について

吉村 県道28号線の整備にかかる具体的ビジョンの概要と策定の時期、そして今後のスケジュールと決定時期について伺う。



現在の惣領交差点

スピード感をもって
整備を進めていきたい

町長 県は、県道28号線を都市計画道路益城中央線という名称で、計画案に関する住民説明会をすでに実施している。

計画案の公告縦覧、熊本県都市計画審議会に諮問し、審議、そして都市計画決定の告示を経て国への事業認可を申請し、認可後、事業着手となる。

熊本地震からの創造的復興を果たしていく上で、県からはスピード感を持って



仮設住宅でのペット散歩風景

整備を進めていくと聞いています。

吉村 地域支え合いセンターの目的と概要、仮設住宅の防災対策、仮設住宅におけるペットの管理と相談窓口の充実について伺う。

町長 被災地の仮設住宅などにおける、高齢者などの安心した日常生活を支えるため、見守り、生活支援、地域交流など総合的な支援体制を準備することで、町は社会福祉協議会のほか、各種団体やNPOなどの協力を得ながら事業展開を進めている。

防火訓練や講習会について

は、消防署と連携し、消火器での初期消火方法、通報要領、避難方法などについて入居者などへ周知していく。

ペットを同伴されている方で構成する飼い主の会の、自主的な適正飼育活動を支援していく。また、熊本地震ベクト救護本部の相談窓口の周知を町広報誌などを通じて図っていく。

吉村 学校給食の業務委託の内容はどうなっているのか。

教育長 給食センターが再開できるまでの間、平成29年4月から3000食を熊本市に業務委託し、3000食を御船町の給食施設を借りて、益城町の職員が調理することになっていく。

吉村 来年のジョギングフェアは開催するのか。

町長 12月5日の実行委員会において、町に活気を取り戻すこと、復興に向け着実に歩みを進める町の姿を、町内外に発信することを目的に、開催することに決定した。

高森線4車線化と、役場庁舎再建は町の復興の根幹である

都市拠点構想で、高森線4車線化と
庁舎再建は、セットで進めていく



中川 公則議員

4車線化に対する町長のビジョンと協力的体制は

中川 この事業は町の震災復興に向けた重要な施策であり、町の将来に向け、さまざまな発展に繋がるものと期待をしている。早期実現に向けた町の協力的体制が必要と思われるがいかかが。

4車線化は町の復興の枢軸である

町長 4車線化の実現は町民皆さんの悲願であり、本町の復興を先導する不可欠なものとして認識している。

蒲島県知事が「県が先行して、4車線化に取り組み、これを約束する」と明言されており、町としても早期実現のため、町と県が一体となって協力的体制を構築しながら取り組んでいくつもりである。また震災関連業務とも連携して、復旧・復興に向けた組織づくりの構築を検討しているところである。



解体が進む熊本高森線

役場庁舎再建場所は

中川 現庁舎敷地の地盤調査を早急に実施し、問題がなければ益城町復興のシンボルである役場庁舎再建場所は、投資的経費が最小限で済む現在の場所が良いと思うが、町長の考えを伺う。

都市拠点に行政の中心を

町長 新庁舎の場所については、新庁舎建設委員会での審議をもとに利便性・経済性等総合的に考慮し出来るだけ早く方向性を示したいと思う。また復興計画策定委員会において、役場は都市拠点の

中心にあるほうがリーズナブルであるとのご意見も頂いているところである。

災害公営住宅建設を早急に

中川 仮設団地及びみなし住宅は原則二年となっている。早急に災害公営住宅が必要であり、現在の町の進捗状況はどのようになっているか。

戸数や場所の検討をする

町長 町としても災害公営住宅の整備を計画しており、今後の住まい等に関するデータを参考にし、現在仮設住宅やみなし住宅に入居されている世帯を対象に、整備する戸数や建設の場所等も検討することになっている。

都市計画道路、広崎・木山線の延伸計画は

中川 昭和57年辻の城地区の区画整理事業完了時に合わせて、都市計画道路が広崎木山線の辻の城から益城



進まぬ都市計画道路

菊陽線までの間が決定された地域であり、延伸が実現すれば緊急車両が回り道しないで直接中心部まで行けるようになる。また今後の都市開発、流通面にも大きな影響を与えたいと思う。

現在多くの被災住宅があり、地域の要望もあることなどから、今この時期に延伸できればと思うがいかかが。

整備する方向で予定する

町長 今後は復興計画における各事業の実施に向けて、具体的な内容等を整備した実施計画を策定しており、県と十分協議しながら道路整備をする方向で予定をしている。



野田 祐士議員

町の将来に繋がる重要な案件は

住民目線で丁寧な説明を行い住民や議会との信頼関係を深め復興に取り組む

町長の政治手法について

野田 町の将来に繋がる重要な案件については、方向性や内容を逸早く住民に説明すると同時に、住民の意見に耳を傾け、住民目線で政策を遂行し、住民の気持ちに寄り添い、さらに丁寧な説明を行うべきである。

残念ながら、このような丁寧さを感じていない町民が多いと感じるが、町長はどう思うか。

住民目線で政策を実行する

町長 町民の皆様には速やかに説明し、意見を聞いたうえで政策を実行していくべきと考えている。

復興計画策定においては、二度の地区別意見交換会とアンケートやパブリックコメントを実施し、町民の意見を反映した復興計画の策定を行ってきた。今後も住民目線で政策を実行していく。

議会の関係について

野田 県道熊本高森線の4

車線化や学校給食の熊本市委託など、議会にとっては「寝耳に水」で、議員は新聞報道により知らされているのが現状である。

これでは、町長が言う「議会と一丸となって進める」といった不可能ではないか。

議員や住民との信頼関係を深めることにより、難局を乗り越え、町の復興発展に取り組むべきではないか。

町長 県道熊本高森線の4車線化は町の悲願である。熊本県が先行して取り組むことから、県の意向により決定されるので、町は直前まで把握していなかった。

学校給食の熊本市への委託



4車線となる予定の県道熊本高森線

は、デリケートな問題もあり、学校教育課内できめた。議会と執行部が情報や課題について共有し、復興・町づくりに取り組んでいかねばならないと考えている。

中心市街地の現状と課題

がら進めていくことが重要と認識している。

野田 県道の4車線化は、事前の説明不足と商工業者を含めた住民への、土地、家屋、営業の補償についての回答がないことが、不安と心配を助長したと言えるのではないかと、住民や沿線商業者の不安や心配事に対して、迅速かつ的確に、そして個別に対応できるように体制の確立を、町及び県に対して早急に要望する。

住民との合意形成が重要

町長 震災対策に追われ、商工会との連携が不十分であったところがある。

道路整備にあたっては、沿道の土地利用と連携した良好な市街地環境の形成や、防災性の向上を図る観点から、住民の理解と合意形成を図りな

市街地における内水・排水対策について

野田 秋津川沿いなどは、雨が降ると住宅が浸水するような箇所が数か所ある。これは緊急性を伴う問題である。どのような対応を行っていくのか。

町長 浸水被害のあった区域の詳細な調査を実施している。今後は流下能力を把握をする等、浸水被害の発生原因の究明を行い具体的な手法を検討していく。

短期的には梅雨時期の臨時的な対策も検討していく。

都市計画道路 広崎木山線について

野田 都市計画道路について、今後の見通しと課題をまとめ、早急に対応していただきたい。

都市計画課長 時期は未定だが、準備段階である。

復旧復興を どのように進めるのか

5年後、10年後を見据えた町づくりを進める



中村 健二議員

復興に対する考えは

中村 大災害の後の復旧復興をどのように進めるのか。復興計画に沿って進めますではなく、町長の考えを聞きたい。

現在地を第一候補に考えている

町長 防災拠点として町民の皆様が安心して頂けるか、議論していただく必要があるかと考えるが、基本的には国の直轄調査を踏まえて、問題なければ現在地を第一候補と考えている。

商業業者は生活がかかっている

規制緩和の特例措置はないので、引き続き国・県へ規制緩和について強く要望を行って行く。

住民生活の再建と安定が第一

町長 被災者のニーズに呼応した災害公営住宅の整備や、住宅再建の支援を行うことで安全・安心な住環境づくりを図る。さらには、県道熊本高森線の4車線化や防災公園の整備など、防災上必要なインフラ整備を進める。

グランメッセ木山線沿線の規制緩和を図れ

中村 今回の震災でほとんど被害のなかったグランメッセ木山線のおかげで、救援物資の搬入や救助隊の到着も早くできたものと思っている。この道路沿線の規制緩和を図り、復興に役立てていくならと思うが考えを伺いたい。

防災拠点である庁舎の位置は

中村 復興計画の図案でみると、役場庁舎の位置は現地建て替えのようだが、大規模な災害にも機能する防災拠点として、この広さで役割を担えるだけの整備ができるのか。

規制緩和を国、県に強く要望していく

町長 国・県に対し許可基準の緩和について要望を行い、震災関連については柔軟に対応したいとの回答を得ている。農振除外については若干の緩和はあるが、農地転用の許可基準については現時点での

中村 県道28号線の4車線化を進めるためには、沿線住民の不安を取り除くことが大事である。特に商工業を営んでいる方にとっては、生活がか

住居系地区計画で対応できれば

移転先については、交渉の時期にも関係するが、益城第一区画整理内及びグランメッセ木山線などに、町もしくは民間活力を利用した住居系地区計画で対応できればと思っている。県道熊本高森線沿線の商店事業者への対応は、関係者の意向を聞きながら、県道沿いに再建できるような合意形成を進める計画と聞いている。個別に事情は違うと思うが、一人一人の思いを聞きながら相談させていきたい。



地震により様相が一変した県道28号

《12月議会での主な議案への賛否の状況》

事 件 名	結 果	上	下	富	松	榮	中	吉	野	宮	坂	寺	坂	石	中	竹	渡	荒	麓
		村	田	田	本	正	川	村	田	崎	本	本	田	田	中	上	辺	牧	田
		幸	利	徳	昭	敏	公	建	祐	金	貢	英	み	秀	健	公	誠	昭	忠
		輝	久	弘	一	敏	則	文	士	次	貢	孝	は	敏	二	也	男	博	則
議員提出・益城町議会委員会条例の一部を改正する条例の制定	可	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○
議員提出・地方自治法第96条第2項の規定による議会の議決すべき事件に関する条例	可	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○
平成28年度益城町一般会計補正予算(第6号)	可	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○
平成28年度益城町国民健康保険特別会計補正予算(第3号)	可	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○
平成28年度益城町後期高齢者医療特別会計補正予算(第2号)	可	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○
平成28年度益城町介護保険特別会計補正予算(第3号)	可	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○
平成28年度益城町公共下水道特別会計補正予算(第4号)	可	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○
平成28年度益城町農業集落排水事業特別会計補正予算(第3号)	可	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○
平成28年度益城町水道事業会計補正予算(第3号)	可	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○
益城町職員定数条例の一部を改正する条例	可	○	○	○	○	○	○	○	棄	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○
益城町子ども・子育て会議条例の一部を改正する条例	可	○	○	○	○	○	○	○	棄	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○
益城町復興計画について	可	○	○	○	○	○	○	○	棄	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○
益城町公共下水道益城町浄化センターの改築(長寿命化)工事委託に関する協定の締結	可	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○
工事請負契約の締結	可	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○
工事請負契約の締結	可	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○
工事請負契約の締結	可	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○
教育委員会教育長の任命同意について	可	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○
教育委員会委員の任命同意について	可	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○
教育委員会委員の任命同意について	否	×	×	○	○	○	○	○	×	×	×	○	○	×	×	×	×	○	○
教育委員会委員の任命同意について	可	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○

○：賛成 ×：反対 棄：棄権 欠：欠席 可：可決 否：否決 裁：議長裁決
 ※議長は賛否同数の場合を除き、通常の採決には加わりません。

教育長・教育委員2名の任命に同意

平成28年12月議会において、教育長及び教育委員の任期満了に伴い、新教育制度に基づく教育長の任命と後任の教育委員の任命に同意した。

教育長(新)

酒井 博範氏

住 所 益城町大字宮園
 生年月日 昭和31年2月8日

教育委員(新)

安尾 宣子氏

住 所 益城町大字平田
 生年月日 昭和31年12月13日

教育委員(新)

徳島 道雄氏

住 所 益城町大字安永
 生年月日 昭和29年12月14日

教育委員(現)

坂田 敏昭氏

住 所 益城町大字寺中
 生年月日 昭和9年11月28日

編集 暦の上ではもう春、熊
後記 本地震から10カ月。少しづつ復興に向け歩みだした益城町、一日も早く元氣な益城町が戻ってくることを願っております。

▼3月19日、選抜高校野球が開幕します。今年は熊本から「秀岳館」「熊本工業」の2校が選ばれました。選手たちは熊本地震後1カ月間ぐらいい、ボランティア活動に精を出され、練習はできませんでした。

そのような中で、厳しい九州大会を勝ち抜き、甲子園の切符を見事勝ち取り、県民に明るい話題を与えてくれました。甲子園では必ずや夢を見させてくれるものと思っております。

▼益城町議会だより「清水」も創刊から18年を迎え、分かりやすい紙面づくりを目指し、委員一同がんばっておりますので、是非ともご一読ください。

(文責 中村健二)

議会広報編集特別委員会

- 委員長 中村 健二
- 副委員長 坂田みはる
- 委員 榮 正敏
- 委員 松本 昭一
- 委員 下田利久雄
- 委員 上村 幸輝



教育長
酒井 博範氏

非常時に「生きて働く力」の育成を

この度、新年一月四日に益城町教育長を拝命し、その職責の重大さを痛感しております。

昨年の熊本地震では、学校も甚大な被害を受け、現在その復旧に取り組んでいるところ です。

さて、今回の地震で改めて感じたこと、それは、「非常時に、どう判断し行動するか」ということの大切さです。言い換えれば、学校においては、「教職員そして児童生徒が、非常時にその危機を回避し、自分の命を守るための判断力・行動力」、その育成を意識した学習や訓練に取り組む必要性を強く感じました。

また今回の地震を實際

に体験し、非常時に「生きて働く力」は、知識や理屈ではなく、体験や経験を通じて身についた力（知恵）のみであること

を確認した次第です。学校教育では、「知・徳・体」のバランスの取れた

育成が重要です。今後は、その「知・徳・体」が非常時に「生きて働く力」になるような教育を展開して参りたいと考えます。

「教育は、国家百年の計」であります。そのことを肝に銘じて、益城町の未来を担う子供たちの教育に邁進して参ります。何卒、皆様方のご支援、ご協力のほどよろしくお願ひ申し上げます。就任のご挨拶とします。



空港保育園

今回は、平成27年4月に開園したばかりの、社会福祉法人純心会 空港保育園をご紹介します。

優しい色調でおめかしした園舎では、平城園長先生と28人の先生方で子ども達を温かく迎えてくれています。

昨年は、開園1年目にしてあの大地震を経験しました。先生方の携帯を使って園児の安否確認に3日かかったそうです。

また同時に駐車場と、園庭は避難してこられた方に開放し、4月25日からは午前中の預かり保育を再開。その後6月には新たに第二空港保育園を開園し家庭的保育にも取り

組まれました。

保育においては、子ども達がやりたいことに挑戦する事を先生は手助けし、成功体験をとおして子どもの自立を目指す。子ども目線でまず受けとめ、耳を傾け受け入れる。自分が出せて、生活しやすい状態にする。そして子どもの健やかな成長を支える給食は、全園児完全給食となっており、あつたかごはんでお腹も心も満たされます。

子ども達が喜んで保育園に来てくれて、また明日も行きたいと思ってもらえることが何よりと、平城園長先生はおっしゃいます。



あったかご飯の給食 モリモリ食べてね



園庭には笑顔がいっぱい 遊びもいっぱい

震災後、園庭の向かいに安永仮設住宅が建ち、多くの高齢者の皆さんと、園児との交流も増えました。園児の元気な声は仮設の皆さんの癒しとなっているそうです。また、園では毎月避難訓練の実施、「地震」という言葉を使わず「お部屋が揺れたよね」これも先生方の思いやりの言葉です。震災を機に防災頭巾とヘルメット、避難カード、食料の備蓄も整い、命を守る準備にも心血を注いでいただき、お宝さんは安心です。

(取材 坂田みはる)